

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想<中・外国語>

特別研修員 外国語 須藤 陽介 (中学校教諭)

単元名 『Unit4 To Our Future Generations』 (第3学年) 全8時間計画

## 単元のねらい

地震に関するALTの体験談や教科書、補助教材から概要や要点を捉え、外国人が安心して地震に対処できるようなパンフレットを英語で作成することができる。

## 外部人材を活用した単元構想

本単元で生徒は、外国人が安心して地震に対処できるようなパンフレットを英語で作成します。そして、本市で合宿をするオリンピックのフェンシングドイツ代表チームをサポートするために、本市で既に働いている**国際交流員(CIR)**を通じて、代表チームにパンフレットを渡してもらうという**オーセンティックな言語活動\***を設定しました。

つかむ過程では、生徒と国際交流員とのやり取りを通して、代表チームにパンフレットを作成し渡したいという生徒の意欲を引き出し、単元の課題とします。そして、試しの活動を行わせることで、パンフレットに必要な内容とその内容をどのように英語で表現すればよいか考えさせます。

追究する過程では、試しの活動で書いたパンフレットの内容や表現の質を高めるために、生徒はALTの地震時における体験談を聞いたり、教科書の内容や地震に関する補助教材を読んだりして、地震についての知識や理解を深めます。そして、個人で書きためてきた情報をグループで共有し、一つのパンフレットにまとめていきます。

まとめる過程で生徒は実際に書き上げたパンフレットを国際交流員に紹介しながら渡します。そして、国際交流員からドイツのフェンシング代表チームに渡してもらいます。このような明確な目的・場面・状況を設定することで生徒が意欲的に既習表現を活用してパンフレットを作成し、実際に活用でき役に立ったという達成感を得られるよう単元を構想しました。

\*英語を使う必要のある実在する相手と、実際の目的をもって行う言語活動

## 外部人材活用に向けて

### 外部人材の調査

- ALTや先生方、教育委員会との情報交換
- インターネットの利用

### 検討した外部人材

- 他校のALT
- ALTの家族や知り合い
- 地域の高校生
- 国際交流員(CIR)
- 県国際交流受入研修員(県外国人活躍推進課)
- 群大留学生派遣事業(群大国際課)
- 訪日教育旅行学校交流(県観光物産課)
- 海外の学校の生徒
- 地域に住む外国人

### 外部人材の決定

### 国際交流員

### 授業前の準備

- 国際交流員との打合せ
  - ・授業参加可能か確認
  - ・授業参加の目的を伝達
  - ・授業計画の伝達
  - ・教材教具の確認・作成
- 打合せの方法
  - ・相互訪問
  - ・メール

## 外部人材を活用した授業実践

過程	主な学習活動
つかむ(2)	<p><b>1. 単元の課題を把握する。</b></p> <p>①地震発生時の避難において大切なことを既習の英語で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(4-1)確認</li> </ul> <p>②単元の課題を発見し、試しの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流員とやり取りし単元の課題を発見</li> </ul> <p><b>単元の課題</b> 外国人が安心して地震に対処できるようなパンフレットを英語で作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しの活動</li> </ul>
追究する(5)	<p><b>2. 単元の課題解決に向け、追究していく。</b></p> <p>①地震の事前の備えとして大切なことを考え、既習の英語で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(4-2)確認</li> </ul> <p>②過去の地震から、地震についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(4-3, 4-4)確認</li> <li>・東日本大震災について感じたことを英語で表現</li> </ul> <p>③補助教材を読み、地震について理解を深め、パンフレットに必要な情報を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTの地震体験談を聞き、補助教材を読んで、パンフレットに必要な情報を英語で表現</li> </ul> <p>④個人で書きためてきた情報を基にグループでパンフレットを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに書きためてきた情報を整理し、グループでパンフレットを作成</li> </ul> <p>⑤パンフレットを共有し内容や表現の質を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いのグループのパンフレットを共有</li> <li>・内容や表現を推敲し、作成完了</li> </ul>
まとめる(1)	<p><b>3. 単元の課題を解決する。</b></p> <p>①パンフレットを国際交流員に紹介し、渡す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット作成時に工夫した点を踏まえ、国際交流員にパンフレットを紹介</li> <li>・国際交流員の話聞き、単元全体の振り返り</li> </ul>

## 外部人材活用の効果

### つかむ過程での効果

- 外部人材を活用することでオーセンティックな言語活動を設定することができました。
- 生徒の学びに対する意欲を喚起することができました。

ドイツには地震がないのか。地震対策パンフレットを作ってあげたらどうかな。



### 追究する過程での効果

- 課題解決に向け、学習内容を深めるために生徒が教科書を活用するようになりました。

教科書のこの内容や表現が活用できるわ。



- 教科書以外にも、自ら情報を調べてくる生徒が増えました。

パンフレットを作るためにもっと地震について調べたい。



- 生徒が既習事項を活用し、適切な英語表現を追究するようになりました。

どう表現したら伝わりやすいかな。



### まとめる過程での効果

- 学びが実際に生かされた達成感を感じることができました。

パンフレットが実際に活用されて嬉しい。



指導のポイント

**指導例：『To Our Future Generations』（第3学年 第2時）**

**1 あいさつ・帯活動をする。**  
**○教師と東京オリンピックについてやり取りする。**  
 T : Next year in 2020, we'll have a big event in Tokyo. Do you know?  
 S : Yes! Tokyo Olympics and Paralympics! ...

**○東京オリンピックについてペアで会話する。**  
 T : OK. Please talk about Tokyo Olympics with your partner. Start!  
 S : What kind of sports do you want to watch? ...

---

**2 単元の課題と本時のめあてをつかむ。**  
**○教師、CIRとのやり取りから単元の課題を発見する。【外部人材の活用】**  
 T : Next year, Olympic athletes will come to Numata. Do you know?  
 S : Yes! The German National Fencing Team.  
 T : That's right. Today we have a special guest. She is from Germany.  
 CIR: Hello. My name is ~. Please call me ~. I'm from Germany. ...  
 T : Do you have any questions?  
 S : What are the differences between Japan and Germany ?  
 CIR: For example, there are no earthquakes in Germany.  
 S : Really! Have you ever experienced an earthquake in Japan?  
 CIR: Yes. The earthquake was short and small. So that was OK.  
 But if a big earthquake happens, I don't know what to do.  
 T : Next summer, the National German Fencing Team will come to Numata.  
 If a big earthquake happens, they will have many problems.  
 What can we do for them?  
 S : Make a pamphlet about earthquakes! ...

**【単元の課題】**  
 外国人が安全に地震に対処できるようなパンフレットを英語で作ろう。  
**【本時のめあて】**  
 外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットに必要な情報を考え、既習の英語で表現しよう。

---

**3 試しの活動に取り組む**  
**○パンフレットに必要な情報を考え、既習の英語で書く。**  
**○内容面・言語面から参考になる表現を全体で共有する。**  
 ↓以下は試しの活動で書かれた生徒の表現例

It's important to escape the safe place. There're many places in Numata. For example, elementary school, junior high school, and the city hall. If you can't find it, what do you do first?  
 To cover your head is good way to protect yourself, and when earthquake stops, you should go to safe place. Especially, the park is the best place because it has no high buildings. So if you find them, you go away there.

---

**4 本時の振り返りをする。**  
**○「外国人が災害時に安全に避難するために、必要な情報について考え、英語で表現できたか」を振り返る。**  
 S: 地震経験の少ない外国人が安全に避難できるようにするために、どのような情報が必要か自分なりに考えることができた。【内容面】  
 S: パンフレットに必要な情報について、更に深く考えていきたい。【内容面】  
 S: パンフレットに必要な情報を既習表現を活用し書くことができた。【言語面】  
 S: 読み手にとってより分かりやすい表現を工夫したい。【言語面】

単元の課題に迫る帯活動

- 既習表現を活用し、自分の思いや考えを伝え合う活動を設定する。
- 本時に関わるトピックを設定することで、授業との関わりを意識させる。

オーセンティックな活動

- 国際交流員を活用することで、明確な目的・場面・状況を設定し、生徒の学習に対する意欲を喚起する。

単元の課題発見

- 教師、国際交流員と生徒のやり取りを通して、生徒に単元の課題を発見させる。

試しの活動

- 試しの活動を通して、まずは生徒に考え表現させる。
- 内容面と表現面を今後どのように工夫していけばよいか、追究する活動に見通しをもたせる。

内容・表現の共有

- 内容面・言語面でよいものを数名の生徒に発表させ、全体で共有できるようにする。

振り返り

- 内容面・言語面についてどのように追究していくのか今後の見通しが確認できるような振り返りとする。

指導例：『To Our Future Generations』（第3学年 第5時）

1 あいさつ・帯活動を行う。

○ALTの国の災害事情を聞き、その後QAを行う。

T : Please tell us about your country's disasters.  
 ALT: In my country, we have many disasters.  
 The most dangerous disaster is a tornado.  
 T : How about an earthquake?  
 ALT: In my country, there are few earthquakes.  
 So I don't know about it well.  
 T : Do you have any questions?  
 S : Have you ever experienced a big earthquake in Japan?  
 ALT: Yes, I have.  
 S : In case of an earthquake, what information do you need? ...

2 本時のめあてをつかむ。

○教師とやり取りしながら本時のめあてを捉える。

T : In this unit, we'll make a pamphlet about earthquakes.  
 Can you get some good information?  
 S : Yes. / So so. / Not enough.  
 T : I think you should have more information.  
 So today I have some other reading materials.  
 Please read them and get some more information.

【本時のめあて】

地震についての理解を深め、パンフレットに必要な情報について英語で表現しよう。

3 本時の活動に取り組む。

○補助資料を読み、気付いたことをメモする。  
 ○気付きについてグループで共有する。  
 ○共有した内容から、パンフレットに必要な情報について考え、既習の英語で表現する。

↓ 以下は生徒が書いた表現例

In 2011, there was a big earthquake in Japan. People call it "Higashinihon Big Earthquake". After the earthquake a tsunami came. It was a very dangerous second disaster. If you are near the sea, a big wave may come so evacuate high place quickly.  
 Earthquakes have ten levels. We don't have to worry about level 0~3. But we have to watch out to Level 4~7.  
 I'll show you some important Japanese words.  
 EX) Help me → Tasukete, I'm here → Kokoni-imasu ...  
 Phone numbers Police...110 ambulance...119 ...

4 本時の振り返りをする。

○「パンフレットに必要な情報について英語で表現できたか」を振り返る。  
 S: ALT の体験談から、実際に日本に来て災害に遭ったときにどのようなことに困っていたかが分かった。そこからパンフレットを作成する時の必要な情報について考えることができた。【内容面】  
 S: 新聞記事から、より詳しい地震の情報が読み取れた。パンフレット作成時に活用していきたい。【内容面】  
 S: 既習の表現を活用し、読み手にとって理解しやすいパンフレットを作成していきたい。【言語面】

本時のめあてに迫る帯活動

- 既習表現を活用し、ALTとやり取りをする活動を設定する。
- 本時に関わるトピックを設定することで、その後の授業との関わりを意識させる。

めあての提示の工夫

- 生徒とのやり取りから、本時のめあてを提示する。

補助資料の活用

- 地震について深く理解させ、パンフレットに必要な情報について更に考えることができるよう補助資料を活用する。
- 補助資料としては、地震に関する新聞記事やALTの地震体験についてのインタビュー記事等を準備し、実際にパンフレットに加えてほしい情報を生徒が捉えられるようにする。

内容面・言語面での質の高まり

- メモを基に互いの気付きを共有させることで内容や表現の質を高めさせる。

振り返りの工夫

- 追究する中で、内容面・言語面から気付いたこと、分かったこと、更に知りたくなったこと等を振り返らせる。

指導のポイント

指導例：『To Our Future Generations』（第3学年 第8時）

1 帯活動を行う。

○完成したパンフレットについて、作成する上で工夫した点も踏まえ、英語で他のグループに説明する。

T : You made your pamphlet! Good Job! Did you make a great one?

S : Yes!

T : OK. First, Please introduce your pamphlet to another group. And please tell your group's good points.

本時のめあてに迫る帯活動

○本時に関わるトピックを設定することで、その後の授業との関わりを意識させる。

2 本時のめあてをつかむ。

○やり取りを通して本時のめあてをつかむ。

T : Today CIR came to our class! Do you know why she came?

S : Yes. We will introduce and pass out our pamphlets to her.

T : That's right. ...

めあての提示の工夫

○生徒とのやり取りを通し、単元の学習内容を振り返らせながら、本時のめあてを提示するようにする。

【本時のめあて】

作成したパンフレットの工夫した点を英語で国際交流員に伝えよう。

オーセンティックな言語活動

3 本時の活動に取り組む。

○各グループで作成したパンフレットについて国際交流員に紹介し、感想や意見のやり取りをする。【外部人材の活用】

①パンフレットについて英語で紹介する。

②自分たちが工夫した点について英語で説明する。

③紹介後は、互いに感想や意見を伝え合う。

↓生徒が作成したパンフレット例

*Earthquake ~To live more safely in Japan~*

First of all, What's an "Earthquake"? It's a kind of disaster. The ground shakes by it. There are many earthquakes in Japan and they may happen at any time.

In 2011, there was a big earthquake in Japan. Many people died. I think it's difficult for you to imagine a big earthquake.

So please check how to protect yourself.

**(Before Earthquake)**

・ Check how to go to the shelter.

We recommend parks because you don't have to worry about falling objects.

・ It's important to prepare for disaster prevention goods.

**(During Earthquake)**

1. Cover your head first. Go under the table.

2. Wait in a safe place until it stops. ...

**(After Earthquake)**

・ Check and get information from media.

・ Be careful of the second disaster landslide or tsunami. ...

Lastly, it's important to ask in Japanese. We'll show you some Japanese words. ...

The situations are different, so your judgement is important.

○国際交流員（CIR）に作成したパンフレットを紹介することでオーセンティックな言語活動を設定する。

○工夫した点を紹介させることで、他の班のパンフレットのよさを確認したり、自分の班の発表からこれまでの学習を振り返らせたりできるようにする。

○最後に国際交流員（CIR）に作成したパンフレットを手渡すことで、実際に活用できるパンフレットを作成することができた達成感を感じさせる。

正確性について

○内容面を重視するが、相手に正しく伝わらないような明らかな誤りについては、ALTを活用し訂正させる。

5 単元全体の振り返りをする。

○「外国人が安全に地震に対処できるようなパンフレットを英語で作り、作成上工夫した点を国際交流員に英語で伝えられたか」を振り返る。

S: これまでの学習を通して、外国の方が避難するのに必要な情報を考えてパンフレットを作成し、工夫した点を伝えることができた。【内容面】

S: 既習の表現を活用し、読み手の立場に立ち、分かりやすく伝えられるよう表現を工夫することができた。【言語面】

単元全体の振り返り

○できるようになったことや気付いたことを中心に、内容面・言語面から単元を振り返らせる。

# 外国語科学習指導案

令和元年 10 月 第 3 学年 指導者 須藤 陽介 (T1)

福島 美由紀 (T2)

Christine Bauer (CIR) \*

## I 単元名 NEW HORIZON English Course 3 Unit4 To Our Future Generations

## II 学習指導要領上の位置付け

第 2 章 外国語科の目標及び内容

第 2 節 英語

1 目標 (5) 書くこと

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

2 内容 (2)

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

## III 目 標

以下のア、イに示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、ウに示す資質・能力を育成する。

ア 既習の表現を活用して、地震の経験が少ない外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットを作成することができる。

(知識及び技能)

イ 教科書や補助資料から得た情報を参考にしたり、各グループで作成したパンフレットの内容や表現を共有したりして、災害時に活用できるパンフレットを作成することができる。

(思考力、判断力、表現力等)

ウ 地震の経験が少ない外国人が安心して地震に対処できるよう、読み手の立場に立ち、意欲的にパンフレットを作成している。

(学びに向かう力、人間性等)

## IV 指導計画 ※別紙参照

\*CIR (Coordinator for International Relations) は国際交流員と呼ばれ、主に地方公共団体の国際交流担当部局に配属され、国際交流活動に従事しています。

## V 本時の展開 (1/8)

- ねらい 避難訓練のお知らせポスター(Unit4-1)を確認することを通して、災害発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現することができるようにする。

### 2 展開

学習活動(分)	○:留意点	点線囲:評価	☆:振り返りの子供の意識
1 あいさつ・帯活動をする(10分)	○あいさつに続けて、写真を用いながら地震に関する話題について生徒とやり取りする。 ○避難訓練を想起させることで、災害時の避難について重要なことを考えさせる。 ○"Do you know what to do in an earthquake?"についてペアで1分間会話させる。		
2 本時のめあてをつかむ。(5分)	○T1とT2の会話や生徒とのやり取りの中で、自然な流れの中でめあてを伝える。 めあて 地震発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現しよう。		
3 本時の活動に取り組む。(30分)	(1)教科書(4-1)の内容を確認する。 ○教科書本文を確認後、災害時の避難において大切なことを考えさせる。 ○災害発生時の避難について大切なことを既習の英語で表現させる。 (2)疑問詞+to不定詞の用法について理解する。 ○教科書本文から新出言語材料について理解させ、活用させる中で習得させる。 災害発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現することができる。 疑問詞+to不定詞の用法を理解している。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(2)-ア、(4)-ア>		
4 本時のまとめ・振り返りをする。(5分)	○災害発生時の避難において大切なことについて考えられたかを問い掛ける。 ☆教科書本文から、災害発生時の避難において大切なことは何か確認することができた。 【内容面】 ☆避難訓練を思い出し、災害発生時の避難において大切なことは何か既習の表現を活用し、表現することができた。 【内容面・言語面】 ☆疑問詞+to不定詞の用法について理解することができた。【言語面】		

**V 本時の展開 (2/8)**

- 1 ねらい 国際交流員の話聞いて、外国人が安心して地震に対処できるようにするためにどのような情報が必要か意欲的に考え、既習の英語で表現できるようにする。
- 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p><b>1 あいさつ・帯活動をする (5分)</b></p> <p>○あいさつに続けて、東京オリンピックに関する話題について生徒とやり取りする。                      ○やり取りする際は、写真を用いながら生徒の理解を促すことができるよう工夫する。                      ○オリンピックについて、互いに質問し合いながら1分間ペアで会話させる。</p>			
<p><b>2 単元の課題をつかむ。(10分)</b></p> <p>○ゲストとして国際交流員を招き、自己紹介やドイツのことについて英語で話してもらう。                      ○生徒の国際交流員への質問や教師と生徒のやり取りを通し、自然な流れの中で単元の課題を伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>単元の課題 外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットを作ろう。</p> </div>			
<p><b>3 本時のめあてをつかむ。(5分)</b></p> <p>○災害時に外国人が安全に避難するためにどのような情報が必要か考えるよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>めあて 外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットに必要な情報を考え、既習の英語で表現しよう。</p> </div>			
<p><b>4 本時の活動に取り組む。(25分)</b></p> <p><b>(1) 個人でパンフレットに必要な情報について考える。</b></p> <p>○生徒自身の思考を促すために、まずはモデルを与えずに書かせる活動に取り組ませる。<span style="float: right;">*【試しの活動】</span></p> <p>○机間支援を通し、T1、T2、CIRで生徒を個別に支援する。                      ○生徒の活動中の疑問については、直接国際交流員に英語で質問するよう促す。</p> <p><b>(2) 個人の考えをグループで共有する。</b></p> <p>○一人で考えることが難しい生徒もいるので友達と考えを共有させる。                      ○机間支援の中でよい気付きについては全体で取り上げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>パンフレットに必要な情報を考え、積極的に書く活動に取り組んでいる。  <span style="display: block; text-align: right;">&lt;ワークシート・CAN-DO リスト/(1)-ア&gt;</span></p> </div>			
<p><b>5 本時のまとめ・振り返りをする。(5分)</b></p> <p>○外国人が災害時に安全に避難するために、必要な情報について考え、英語で表現できたかを問い掛ける。</p> <p>☆地震の経験が少ない外国人が安全に避難できるようにするために、どのような情報が必要か自分なりに考えることができた。【内容面】</p> <p>☆パンフレットに必要な情報について、今後更に深く考えていきたい。【内容面】</p> <p>☆既習表現を活用し、パンフレットについて必要な情報を書くことができた。【言語面】</p> <p>☆既習表現を活用し、読み手にとってより分かりやすいパンフレットにまとめていきたい。  <span style="float: right;">【内容面・言語面】</span></p>			

\*試しの活動とは、つかむ過程において既習事項だけで題材や単元の課題に取り組む活動のことです。

## V 本時の展開 (5/8)

- 1 ねらい ALT など市内に住む外国人が地震発生時に困った経験談を聞いたり、地震に関する新聞記事などを读んだりすることを通して、パンフレット作成に必要な情報を捉えることができるようにする。

### 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 あいさつ・帯活動をする (5分)	○あいさつに続けて、ALT が初めて日本に来て地震が発生した時の話を聞かせる。 ○ALT に英語で質問し、更に詳しい情報を得られるようにさせる。		
2 本時のめあてをつかむ。(5分)	○T1とALT の会話や生徒とのやり取りを基に、めあてを伝える。 めあて 地震についての理解を深め、パンフレットに必要な情報について考えよう。		
3 本時の活動に取り組む。(35分)	(1) 補助資料を読む。 ○実際に外国人が災害時に知りたい情報や体験談を読み物資料として準備し、資料を読ませる。 ○補助資料を各自で読ませ、気付いたことをメモさせる。 (2) 気付いたことをグループで共有する。 ○互いの気付きを共有させ、気付いたことや考えたことを話し合わせる。話し合った内容は、メモを取ってまとめさせる。 ○パンフレットに入れる内容についてどのように英語で表現するかグループで考えさせる。 補助教材の内容を読み取り、パンフレット作成に必要な情報を捉えることができる。 外国の災害事情の違いについて理解している。 ＜ワークシート・CAN-DOリスト／(3)、(4)-イ＞		
4 本時のまとめ・振り返りをする。(5分)	○パンフレットに必要な情報について考えることができたかを問い掛ける。 ☆ALT の体験談から、実際に日本に来て災害に遭ったときにどのようなことに困っていたかが分かった。そこからパンフレットを作成する時の必要な情報について考えることができた。 【内容面】 ☆新聞記事に書かれているより詳しい地震の情報が読み取れた。パンフレット作成時に活用していきたい。【内容面】 ☆既習の表現を活用し、読み手にとって理解しやすいパンフレットを作成していきたい。 【言語面】		



## V 本時の展開 (8/8)

1 ねらい 各班で作成したパンフレットを国際交流員に紹介することを通して、自分たちが工夫した点を英語で伝えることができるようにする。

### 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
1 あいさつ・帯活動をする (5分)	○完成したパンフレットについてグループで確認させる。 ○パンフレットを紹介する役割分担を決めさせ、他のグループにパンフレットを紹介させる。 また、作成する上で工夫した点についても英語で説明させる。		
2 本時のめあてをつかむ。(5分)	○国際交流員を招き、国際交流員にもパンフレット紹介を聞いてもらうことで、生徒の意欲をより高められるようにする。		
めあて 作成したパンフレットの工夫した点を英語で伝えよう。			
3 本時の活動に取り組む。(35分)	(1) 各グループで作成したパンフレットについて発表し、感想や意見の交換をする。 ○パンフレットについて全体に紹介させる。 ○自分たちが工夫した点についても英語で説明させる。 ○発表後は、互いに感想や意見を伝え合わせる。		
パンフレット作成において工夫した点を英語で伝えることができる。 <ワークシート・CAN-DO リスト/(2)-エ>			
4 単元全体の振り返りをする。(5分)	○外国人が安全に地震に対処できるようなパンフレットを英語で作り、作成上工夫した点を国際交流員に英語で伝えられたかを問い掛ける。 ☆これまでの学習を通して、外国の方が避難するのに必要な情報を考えてパンフレットを作成し、工夫した点を伝えることができた。【内容面】 ☆既習の表現を活用し、読み手の立場に立ち、分かりやすく伝えられるよう表現を工夫することができた。【言語面】		

目標	以下のア、イに示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、ウに示す資質・能力を育成する。 ア 既習の表現を活用して、地震の経験が少ない外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットを作成することができる。 イ 教科書や補助資料から得た情報を参考にしたり、各グループで作成したパンフレットの内容や表現を共有したりして、災害時に活用できるパンフレットを作成することができる。 ウ 地震の経験が少ない外国人が安心して地震に対処できるよう、読み手の立場に立ち、意欲的にパンフレットを作成している。		
評価規準	(1)ア：パンフレットに必要な情報を考え、積極的に書く活動に取り組んでいる。 イ：読み手が理解しやすくなるようにパンフレットを書いたり、書き直したりしている。 (2)ア：災害発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現することができる。 イ：地震の事前の備えとして大切なことについて考え、既習の英語で表現することができる。 ウ：資料や互いのパンフレットを共有する中で、パンフレットを訂正したり、書き加えたりすることができる。 エ：パンフレット作成において工夫した点を英語で伝えることができる。 (3)教科書や補助教材の内容を読み取り、パンフレットに必要な情報を捉えることができる。 (4)ア：疑問詞＋to不定詞、It＋be動詞＋～(＋for)＋to不定詞、want＋(人)＋to不定詞の用法を理解している。 イ：外国の災害事情の違いについて理解している。		
過程	時間	☆振り返り(意識)	◇評価項目<方法(観点)>
つかむ	1 ○避難訓練のお知らせポスター(Unit4-1)を確認することを通して、災害発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現できるようにする。 地震発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現しよう。 1 ○国際交流員の話聞いて、外国人が安心して地震に対処できるようにするためにはどのような情報が必要か意欲的に考え、既習の英語で表現できるようにする。 《単元の課題》 ◎外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットを作ろう。 外国人が安心して地震に対処できるようにするためのパンフレットに必要な情報を考え、既習の英語で表現しよう。	☆振り返り(意識) ☆教科書本文から、災害発生時の避難において大切なことは何か確認することができた。 ☆避難訓練を思い出し、災害発生時の避難において大切なことは何か既習の表現を活用し、表現することができた。 ☆疑問詞＋to不定詞の用法について理解することができた。 ☆地震の経験が少ない外国人が安全に避難できるようにするために、どのような情報が必要か自分なりに考えることができた。 ☆パンフレットに必要な情報について、今後更に深く考えていきたい。 ☆既習表現を活用し、読み手にとってより分かりやすいパンフレットにまとめていきたい。	◇災害発生時の避難において大切なことは何か考え、既習の英語で表現することができる。 ◇疑問詞＋to不定詞の用法を理解している。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(2)-ア、(4)-ア> ◇パンフレットに必要な情報を考え、積極的に書く活動に取り組んでいる。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(1)-ア>
追究する	1 ○教科書の内容(Unit4-2)を確認することを通して、地震について事前の備えとして大切なことは何か考え、既習の英語で表現できるようにする。 地震について、事前の備えとして大切なことは何か考え、既習の英語で表現しよう。 1 ○教科書の内容(Unit4-3,4-4)を確認することを通して、地震についての理解を深めることができるようにする。 過去に起きた実際の地震の話から、地震についての理解を深めよう。 1 ○ALTなど市内に住む外国人が地震発生時に困った経験談を聞いたり、地震に関する新聞記事などを讀んだりすることを通して、パンフレット作成に必要な情報を捉えることができるようにする。 地震についての理解を深め、パンフレットに必要な情報について考えよう。 1 ○これまでに学習した内容や得た情報をグループで共有することを通して、パンフレットを作成することができるようにする。 情報を整理し、パンフレットに必要な内容をまとめよう。 1 ○パンフレットを互いに共有することを通して、内容や表現についての質を高めることができるようにする。 パンフレットを互いに共有し、内容や表現について推敲したり、付け加えたりしよう。	☆地震の事前の備えとして大切なことについて考えることができた。 ☆It＋be動詞＋～(＋for)＋to不定詞の用法について理解することができた。 ☆過去の地震についての物語を讀んで、地震についての理解を深めることができた。 ☆want＋(人)＋to不定詞の用法を理解することができた。 ☆ALTの体験談から、実際に日本に来て災害に遭ったときにどのようなことに困っていたか分かった。そこからパンフレットを作成する時の必要な情報について考えることができた。 ☆既習の表現を活用し、読み手にとって理解しやすいパンフレットを作成していきたい。 ☆これまでに学習した内容を基にパンフレットに入れる情報を整理できた。 ☆これまでに学習した表現を活用し、パンフレットを作成することができた。 ☆パンフレットを共有し、必要な内容について深めることができた。 ☆表現についても参考になる表現を見付けることができた。	◇地震の事前の備えとして大切なことについて考え、既習の英語で表現できる。 ◇It＋be動詞＋～(＋for)＋to不定詞の用法を理解している。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(2)-イ、(4)-ア> ◇過去の地震についての物語を讀んで、内容を理解している。 ◇want＋(人)＋to不定詞の用法を理解している。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(3)、(4)-ア> ◇補助教材の内容を読み取り、パンフレット作成に必要な情報を捉えることができる。 ◇外国の災害事情の違いについて理解している。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(3)、(4)-イ> ◇読み手が理解しやすくなるようにパンフレットを書いたり、書き直したりしている。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(1)-イ> ◇資料や互いのパンフレットを共有する中で、パンフレットを訂正したり、書き加えたりすることができる。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(2)-ウ>
まとめ	1 ○各班で作成したパンフレットを国際交流員に紹介することを通して、自分たちが工夫した点を英語で伝えることができるようにする。 作成したパンフレットの工夫した点を英語で伝えよう。	☆これまでの学習を通して、外国の方が避難するのに必要な情報を考えてパンフレットを作成し工夫した点を伝えることができた。 ☆既習の表現を活用し、読み手の立場に立ち、分かりやすく伝えられるよう表現を工夫することができた。	◇パンフレット作成において工夫した点を英語で伝えることができる。 <ワークシート・CAN-DOリスト/(2)-エ>